

主任介護支援専門員研修の評価と活用
－非営利活動法人兵庫県介護支援専門員協会
主任介護支援専門員研修アンケート調査から－

立命館大学大学院応用人間科学研究科
対人援助学領域 発達・福祉臨床クラスター
安達 眞理子

2006年度介護保険制度改正により、介護支援専門員の研修体系が改正され、地域包括支援センター等で包括的継続的ケアマネジメントを担う中核的人材である主任介護支援専門員を養成することを目的に、「主任介護支援専門員研修」が位置付けられ、全国都道府県単位で研修が実施された。

2009年度の介護保険報酬改定が行われ、事業所加算として主任介護支援専門員の配置等から算定できることになり、2009年度主任介護支援専門員研修は、受講者の増加が予測された。主任介護支援専門員研修を修了すると資格取得となることから、資格に必要な主任介護支援専門員の役割理解や実践力が習得できたのかが重要であると考へた。受講動機や研修への期待度、ケアマネジメントに対する考え方を明らかにした上で、11日間（3か月間）の研修を修了した時との変化はあったのかを検証し、研修を通して介護保険制度で求められている主任介護支援専門員の役割が理解することができたかを検証できると考へた。調査対象は主任介護支援専門員研修を受ける198人であり、研修前・研修内容・研修後のアンケート調査を行った

受講者の研修項目の期待度は、「スーパービジョンの基本的な考え方」をはじめスーパービジョン関連と「サービス展開におけるリスクマネジメント」が期待されており、研修内容では、全体として「ケアマネジメントと介護支援専門員の倫理」「サービス展開におけるリスクマネジメント」「ターミナルケア」の講義が理解度も含めた高い結果であった。その他の内容も含めて、全体的に理解できたと言える。ケアマネジメントの考え方について、研修前後での変化は少ない。しかし達成度については、研修を受講後、自らの業務を振り返り達成できていたと答えた人がどちらともいえないに変化した。これは、主任介護支援専門員になろうとしている人に依然と多いより客観的な評価を受けていないが故に適切であったのか、そうでなかったのかの判断が難しく、今回の研修を受けることで自己評価が低くなる現象であるとする。

主任介護支援専門員には、専門職として必要と言われているスーパービジョンを受ける環境が必要である。個々のケアマネ支援や地域のケアマネ力の向上支援を行うためにも自らを支援する者が必要である。主任介護支援専門員研修の研修内容・時間は、厚生労働省が示すカリキュラムに従って行うこととなっているが、全国的に手探りである。主任介護支援専門員に求められている役割を発揮するために地域の環境改善に向けた実践力を養成する研修の内容充実や実践できる環境を築きあげることが今後重要になると考へる。